

のびのびハリマ〜障害児生活訓練〜 夏休みをお友達と有意義に過ごしました

夏休みの期間中、特別支援学校や特別支援学級に在籍する子どもたちが、他の学校の友達と交流しながら一緒に



▲包丁は使う表情は真剣。見つめるほうも真剣

楽しく過ごす障害児生活訓練事業「のびのびハリマ」が、福祉会館で実施されました。週3日（全16日）のこの活動は、今年で4年目を迎え、毎年参加する子どももいます。（2年目以降、播磨町社会福祉協議会の受託事業）

交通事故を撲滅しよう

全国交通安全母の会連合会が主催する「交通安全全国キャラバン隊」が、9月1日（月）に播磨町を訪れ、内閣府特命担当大臣からのメッセージが清水町長に伝達されました。加古川警察署の和田順一署長からは、「管内での事故が多発し、町内でも今年2人の方が交通事故によって亡くなっている」との話があり、交通ルールの遵守を行政機関と民間が協力して呼びかけていく必要性があると伝えました。

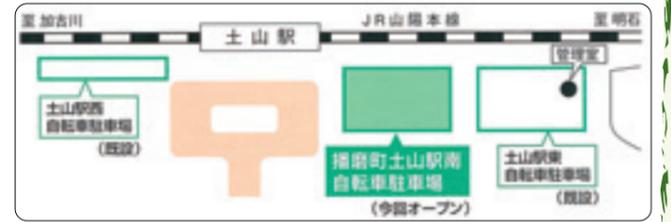


▲交通ルールを守ると約束しました

自転車駐車場の整備が完了しました

JR土山駅には、「土山駅西自転車駐車場」と明石市の「土山駅東自転車駐車場」が既に設置されています。しかし、一時利用をする自転車の台数に対して収容できる台数が十分ではなかったために、周辺では放置自転車が増えて歩行者の通行の妨げとなっていました。

そこで町は、9月6日（土）に新たに21台の自転車定期利用できる「播磨町土山駅南自転車駐車場」をオープンし、同時に「土山駅西自転車駐車場」の一時利用収容台数を100台増設しました。



▶テープカットをして開設しました

喜瀬川で今年もたくさんの生き物を確認しました

毎年、喜瀬川のであい橋付近で実施している水生生物の観察会。今年も、健康安全グループと図書館が主催する夏休みエコ教室で環境学習の一つとして8月13日（水）に催しました。



▲生物の名前を記録しました

東播磨ふれあいネット (BAN-BANテレビ 11チャンネル)
播磨町・稲美町・加古川市・高砂市の情報番組です。

10月の放送予定 (収録場所 播磨町)

- 前半 10月6日(月)~19日(日)
●特集 第20回記念加古川マラソン大会 (加古川市)
●ふれあいインフォメーション (各市町からのお知らせ)
後半 10月20日(月)~11月2日(日)
●特集 好調! 稲美町健康づくり施設「いなみアクアプラザ」(稲美町)
●ゆうゆうライフ (加古川市)

放送時間 (第1・3月曜日の①以外は再放送) 30分番組
月・水・金 ①午前10時 ②午後2時 ③午後7時30分 ④午後11時30分
火・木 ①午前9時30分 ②午後4時 ③午後9時30分
土・日 ①午前8時 ②午前11時30分 ③午後5時 ④午後9時

わんぱくはりまっ子



よしむら まお 吉村 舞桜ちゃん(3歳) 古田

これからも げんきにそだってね 父・母より



このコーナーに出入りいただく「わんぱくはりまっ子」を募集しています。(未就学児) 広報担当まで電話をお願いします。

楽屋裏

今月の特集は、郷土資料館特別展の「ジョセフ・ヒコ」です。ヒコとその周囲の人物の功績を知れば知るほど、その偉大さに感動します。たとえば絶望的な漂流生活の中で、一人の自殺者も出さずにアメリカに漂着し、帰国を果たしていることは、航海上貴重な記録とされています。それは、船頭の萬蔵がいかに優秀な人物であったかを物語っています。萬蔵も播磨町の旧宮西村出身の顕彰者です。十分に紹介できる機会がないのが残念ですが、歴史講座などで見聞を広めていただければ幸いです。また、10月5日(日)まで、このページで紹介しているBAN・BANテレビでもジョセフ・ヒコの特集が見られますので、ぜひご覧下さい。(宮)

いいね! はりま

町政 レポート No.21



▲ライマ市役所にて

今年の夏は、高校野球の全国大会に加古川北高校が出場したり、北京オリンピックが開催されたりと、何かとスポーツに関する話題が多い夏でした。地域を越えて、国を越えて、「笑顔」「涙」「感動」を共有し、祝福の拍手を送る映像に改めて「人間っていいな」と思いました。

■播磨町は非核自治体宣言をしています。原爆の恐ろしさや、戦争の悲惨さ、平和の尊さを考えていただくために、8月に被爆者の方々の体験談を聞く講話会、映画会、平和展などを開催しています。13日は映画「アンゼラスの鐘」を上映しました。長崎に原爆が投下された後、人々と共に試練に耐え医療活動に奔走した青年医師を描いたお話です。「改めて戦争の恐ろしさを感じ知らされました。平和な時代に生きているありがたさに感謝しなくてはと思う。世界平和を願うばかりです。(感想文から)」。播磨町の平和事業を通じて多くの方に平和の大切さを実感していただければと思います。

■8月20日から1週間、15人の中学生と共にアメリカのライマ市へ行ってきました。ライマではパーガー市長など多くのライマ市民から温かいおもてなしと大歓迎を受けました。毎年播磨町から、またライマ市から多くの方々が訪問団として相互訪問し、友好を深めてきている歴史の1ページに加わることができたことを参加者一同、とてもうれしく思っています。そして、日本人で初めてアメリカの市民権を得たのが、播磨町の先覚者「ジョセフ・ヒコ」でした。今年はちょうど150年目にあたります。その記念すべき年に同年代の少年少女たちが訪れ体験したことは、いつか町の中で、また自分の人生の中で生かされることでしょう。播磨町とライマ市の友好が末永く続くように願っています。(報告は次号で)

播磨町長 清水ひろ子